西伊豆健育会病院

永原美里（看護師 主任 / 看護部）

功　　績　日々の訓練と冷静さが生きたリーダーシップを発揮でき、困難な事例だったが迅速な患者救命に繋げることが出来た功績

推 薦 者　相馬葉子

推薦理由　永原は、ICLSインストラクターの資格を持ち、普段から今回のような対応の訓練を重ねている。今回、異変を感じた瞬間に、訓練で培った技術と知識から、メンバーに的確な役割と指示を出し、チームが円滑にCPRを行えたことで、今回の救命と状態改善につながった。心肺蘇生を行うにあたり、永原は、リーダーとして、招集したメンバーへ胸骨圧迫・記録・パルスチェック・薬剤（アドレナリン）投与の指示を的確に行うことで、4分後に速やかに蘇生につなげることができた。それら指示を出しながら、自身も頭側でマスク換気を行った。日々の訓練からスムーズな対応を実践し救命に繋げた功績として理事長賞に推薦いたします。

内　容

西伊豆健育会病院は365日、24時間「救急は決して断らない」ことを30年以上続けています。この度、肝膿瘍の診断で入院した患者さんが、入院翌日未明に致死的不整脈から心肺停止となりました。その際、担当看護師が予兆を感じ取り、医師へ報告後速やかにスタッフ（病棟看護師・当直看護師）を招集。CPRを行う場面でも的確な指示を出し、チームで救命につなげることができた症例に深く関わった看護師の永原を理事長賞に推薦いたします。

90代前半女性、元来ADL自立の方です。4月上旬の夕方にウォークインで来院し、処置室内で急激な発熱と意識障害を伴う症状が出現。諸検査の結果、肝膿瘍を含めた肝胆道系の感染を疑う診断で入院となりました。

入院後意識は改善。意思疎通可能であったが、翌日未明に担当看護師（永原）が排泄ケアを行った直後に、うめき声と右手を高く上げたのちに反応がなくなった。入院時から装着していた心電図モニターではVT（脈あり）を確認。同時に当直医・外来看護師に連絡し、応援要請。2分後に脈なしVTからVFへ移行したため、速やかに除細動を実施。同時に駆けつけていたスタッフとともにCPRを継続した。一連の行動がスムーズに行えるよう、リーダーとしてメンバーに役割・指示を出し、実践することで、除細動後から4分でROSCすることができた。

その後、同日日中に意識レベルの改善が見られ、その翌日には会話が可能となった。現在、離床が進み、短距離ではあるが自立歩行にまで改善することができている。